

看護部

【看護部管理体制】

看護部長	野中理佳
副看護部長	村上美香、平山恵
看護師長	8名
副看護師長	19名

【看護部理念】

「患者さまの人権を尊重し、心あたかな看護を提供します」

【平成 28 年度の総括】

平成 28 年度（平成 29 年 3 月 31 日現在）の看護職員は常勤看護職員 177 名、非常勤職員 39 名、合計 216 名でした。採用数は 4 月に 7 名（常勤のみでうち新卒 4 名）、退職数は 19 名（定年退職者を含む）で離職率 10.2%と平成 27 年度より 4.1 ポイント上昇しました。離職の主な理由は家庭の都合や通勤距離ですが、多忙な業務による疲弊もあり「ゆっくり看護がしたい」という理由が大きいのではないかと思います。看護体制 7 対 1 を維持するための人員確保は最も重要で、新人より中堅者の離職が多い現状であるため、やりがい感が持てるような職場環境の整備を行い中堅職員の定着化にも努めていきたいと思えます。

【平成 28 年度 看護部目標及び評価】

スローガン「チームワーク ～協力して共に働く～」

I 看護の質の向上を図り、患者さまに安心・安全な看護が提供できる

1. 臨床現場に対応できる知識・技術の向上
2. 看護ケアの見える化（看護過程、看護記録の充実）
3. PNS 導入に向けた活動

II 医療チームの一員として他部門と協力・強調し、経営効果を考慮した看護が提供できる

1. 看護業務の改善と質の標準化
2. 入院前から効果的な退院支援を行い継続看護の充実を図る
3. チーム医療の充実と発展

看護部の活動としては、年度目標を到達すべく全看護単位が一丸となり多くの活動計画を実践しました。平成 28 年度の大きな計画として 12 月に病院機能評価一般病院 2 3rdG.Ver1.1 の受審がありましたので、そこに指標を置き看護部目標を計画しました。受審に向けて看護師長を中心にプロジェクトチームを結成し情報を共有するとともに、マニュアル改定や自分たちが行ったケアが見えるような看護記録の見直し、病棟・外来との継続、ラウンドによる環境改善など一丸となって取り組みました。また、ケアプロセスについても、多職種と何度もプレゼンのシミュレーションを行ったり他チームのプレゼンを見学したりしてより良いものに仕上げていきました。このような活動によって

6 部門別活動状況 【看護部】

平成 28 年 3 月に無事認定を受けることができました。今回の受審で患者さまの入院から退院後までどのような関わりが必要か再認識することができ、これで終わりではなく引き続き多職種と連携しながら、患者さまはもちろんのこと職員の満足度も高めていきたいと思いをします。

【看護職員数（平成 29 年 3 月 31 日現在）】

職種	常 勤	非常勤	合 計
保健師 ※	2 名	0 名	2 名
助産師	6 名	3 名	9 名
看護師	154 名	9 名	163 名
准看護師	15 名	6 名	21 名
ケアワーカー	0 名	21 名	21 名
合計	177 名	39 名	216 名

※保健師数は保健師としての業務をしている人数を表す

【年度別職員状況】

	2 6 年	2 7 年	2 8 年
離職率	4.10%	6.10%	10.2%
退職者(定年含む)	7 名	11 名	19 名
年度別採用者	23 名	17 名	7 名
常勤看護師数	170 名	179 名	176 名

【年度別看護師平均年齢】

	2 6 年	2 7 年	2 8 年
看護師全体	38.2 歳	38.9 歳	40.2 歳
師長	50.9 歳	52.4 歳	50.8 歳
副師長	46.7 歳	47.6 歳	48.9 歳
スタッフ	36.5 歳	37.0 歳	38.6 歳
看護補助者	51.4 歳	50.8 歳	48.8 歳
新採用者のみ	34.9 歳	32.5 歳	35.3 歳

【認定看護師】

緩和ケア認定看護師	1 名
感染管理認定看護師	1 名
がん化学療法看護認定看護師	2 名
救急看護認定看護師	1 名
認定看護管理者	3 名

【看護学生臨地実習受け入れ】

- ・鹿本医師会看護学校
- ・九州看護福祉大学
- ・九州中央リハビリテーション学院
- ・熊本保健科学大学
- ・城北高校（看護科、看護専攻科）
- ・玉名中央女子高校（看護学科、看護専攻科）

【看護体験受け入れ】

- ・高校生の1日看護体験（熊本県看護協会）16名
- ・鹿本高校生インターンシップ 5名
- ・中学生職場体験学習 2名

【看護の日】

- ・63名の参加あり

【資格取得者】

認定看護管理者ファーストレベル修了者	7
認定看護管理者セカンドレベル修了者	4
認定看護管理者サードレベル修了者	3
日本糖尿病療養指導士	4
アドバンス助産師(ラダー レベルⅢ)	3
消化器内視鏡技師	4
呼吸療法認定士	2
実習指導者講習会	16
訪問看護管理者研修	1
訪問看護師養成研修会	6
ケアマネージャー	7
退院支援看護師養成講習会	2
ACLSプロバイダー	3
NCPR(Aコース)	5
NCPR(Bコース)	6
救急救命士	1
栄養サポートチーム専門療法士	1
禁煙サポーター	3
ストーマケアナース学習会	5
肝炎コーディネーター	4
ELNEC-J（指導者）	14(1)
リンパ浮腫セラピスト	1

6 部門別活動状況 【看護部】

がん支援相談員	2
がん看護専門分野講義研修 緩和ケアコース	1
看護師に対する緩和ケア教育の指導者研修	1
Psychological First Aid	1
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会(PEACE)	1
がんリハビリ	1
グリーフケアアドバイザー特級	1
人間ドック健診情報管理指導士	2

外 来

【外来の概要】

＜一般診療科＞

一般内科 腫瘍内科 呼吸器内科 循環器内科 内分泌・代謝内科 消化器内科 眼科 耳鼻咽喉科 小児科

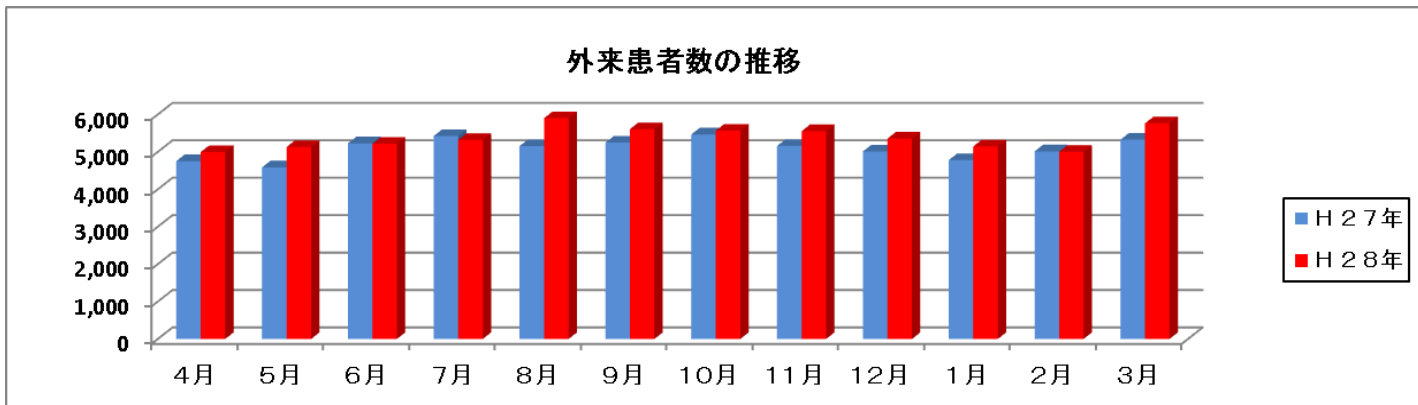
総合診療科 外科 整形外科 泌尿器科 産婦人科 乳腺外来

＜特殊・専門外来＞

セカンドオピニオン外来 禁煙外来 睡眠時無呼吸外来 化学療法外来 女性外来 ストーマ外来

PEG 外来 緩和ケア外来 両親学級 糖尿病外来 小児科予防接種

＜外来患者の推移＞



【平成 28 年度総括】

本年度は、熊大より消化器外科医師 3 名を迎え、消化器系（主に肝臓系）の手術・検査の治療が増加し外科の診療範囲が広がった。また新たに腫瘍内科診療が増設され化学療法件数の大幅な増加（前年度比+207件）繋がっている。受診患者数も前年度を上回り、マンパワー不足もあり、日々多忙な毎日であったが、スタッフ全員、精進し、地域の皆様に信頼される病院作りに貢献したいと考えている。

本年度は、病院機能評価受審の年であり、自分たちが日頃行って居る看護、業務を見直す良い機会となった、目標管理も、機能評価で重要視され、かつ外来の課題であった、外来看護過程・看護記録の充実と継続看護を中心に取り組んだ。受審に向けチームが一丸となり、それぞれが役割を果たすことができた。

【スタッフ】

看護師長：山下 啓子（訪問看護室管理者兼務）

副看護師長： 福田 純子、米加田 裕子、豊福 貴子、辻崎 小百合

看護師：25名 非常勤看護師：13名 看護補助者：1名

【外来目標】

1. 看護の質向上を図り、患者様に安心安全な看護が提供できる

- 1) 臨床現場に対応できる知識技術の向上
- 2) 看護ケアの見える化（看護過程、看護記録の充実）
2. 医療チームの一員として他部門と協力協調し経営効果を協力した看護が提供できる
 - 1) 看護業務の改善と質の標準化
 - 2) 入院前から効果的な退院支援を行ない継続看護の充実を図る
 - 3) チーム医療の充実と発展

【今後の課題・展望】

1. 看護の質向上：臨床現場に対応できるさらなる知識・技術の向上、勉強会を通して強化する
2. 継続看護の充実：外来全科で看護サマリーを使用した病棟との連携ができるよう取り組む
3. 外来記録の充実：記録の質を上げる、SOAPでの記録（看護過程の理解・非常勤職員の教育）

2 階 病 棟

【病棟の概要】

病床数：40床 HCU：6床
 診療科：外科、泌尿器科、婦人科

【平成 28 年度総括】

今年度は、消化器外科の常勤医師の着任により肝胆膵疾患の治療や検査、手術などが行われるようになりました。また、2階病棟は急性期と周術期の看護を担当するため、疾患の勉強会や BLS 研修、教育委員が中心となったシナリオ シミュレーション研修を経年別で開催し臨床現場で対応できる知識と技術の向上に努めました。また、今年度は機能評価受審に向けて病棟の環境の改善を図り、病棟・HCU・救外のマニュアルの見直し作成を行い、クリティカルパスも新たに肝動脈化学塞栓療法(TACE)パスや経皮的ラジオ波焼灼(RFA)パスなど作成を行い運用率の向上に努めました。今後も安全・安心な看護が患者様に提供できるよう職場環境の改善に努め、より良い看護が提供できるように努めて行きたいと考えています。

総入院患者数	新入院患者数	退院患者数	平均在院日数	病床利用率
11,760 人	1,043 人	981 人	日	80.5%

平成 28 年度 手術件数

	全身麻酔	腰椎麻酔	局所麻酔	合計
外科	209	7	27	243
泌尿器科	48	40		88
婦人科	47	2		49

【スタッフ】計 35 名

病棟師長： 田中 美佐子
 副師長： 吉里 美智代 松本 明美 江藤 千鶴
 看護師： 25 名 (非常勤 1 名) 准看護師：2 名 ケアワーカー：4 名(非常勤)

【病棟目標】

- 臨床現場に対応できる知識・技術の向上
 - ①病棟学習会の充実 ②BLS 研修を行い救急場面での知識・技術の向上
- 看護業務の改善と質の標準化
 - ①病棟・HCU マニュアルの見直しと新規作成・クリティカルパスの作成と運用
- 入院前から効果的な退院支援を行い継続看護の充実を図る
 - ①効果的な退院支援を行う

【今後の課題・展望】

1. 病棟の役割を認識し看護レベルの向上に努め、安全・安心な看護が提供できる
2. 担当看護師としての役割を認識し、効果的な退院調整ができる
3. 業務のスリム化に努め、看護業務の改善に取り組む

3 階 病 棟

【病棟の概要】

病床数：50床（感染症病床4症）

診療科：一般内科・呼吸器内科・総合診療科・循環器内科・消化器内科・代謝内科

【平成28年度総括】

総入院患者数	新入院患者数	退院患者数	平均在院日数	病床利用率
15,470人	1,193人	1,152人	日	84.8%

【種別患者数】

癌・良性腫瘍	消化管疾患	肺疾患	心不全
270 (27%)	197 (20%)	175 (18%)	68 (7%)

【スタッフ】

（病棟師長）米加田美和（認定看護管理ファーストレベル）

（副師長）請野律（糖尿病療養指導士） 山口さとみ

（看護師） 22名 （准看護師） 4名 （ケアワーカー） 7名

【病棟目標】

- ①看護記録の向上をはかる
- ②病棟学習会を充実する
- ③業務改善を行い、職場環境を整える
- ④効果的な退院支援を行う

3F病棟は内科病棟で、6つの診療科を担当しています。消化器内科の患者が半数をしめ、内視鏡検査・処置が多く行われています。また、循環器内科の医師が2名になり、毎週1～2名の心臓カテーテル検査が行われるようになりました。その他にも感染症患者の対応、化学療法や人工呼吸器管理や重症管理など幅広い知識が必要となります。本年度は、急性期の病棟としての役割を果たし看護の質の向上ため心電図の学習と、在院日数の短縮に向けて退院支援を充実させるため介護保険の勉強会を行いました。その効果として家族やケアマネジャーを交えた合同カンファレンスを行うことができるようになってきました。また、動線を考えた物品配置やウォーキングカンファレンスを開始したことは、業務改善につながったと考えます。

ケアプロセスを評価される病院機能評価では、カルテの準備に時間をかけたことで、必要とされる記録を学ぶ機会となりました。みんなで同じ目標に向かい時間を共有できたことは、今後の看護記録の向上に繋がるのではないかと考えます。また、他の病棟へアドバイスをを行うなど、病院機能評価受審に向けての取り組みは充実していました。

【今後の課題・展望】

- 1 3F病棟の役割を認識し、看護の質の向上をはかる
- 2 業務改善に向けた取り組み

4 階 病 棟

【病棟の概要】

病床数：54 床

診療科：整形外科・眼科

【H28 年度総括】

【平成28年度手術件数】

総入院患者数	新入院患者数	退院患者数	平均在院日数	病床利用率
16, 811 人	866 人	628 人	22.5 日	85, 3%
科別	全身麻酔	脊椎麻酔	局所麻酔	合計
整形外科	3 5 1 件	1 6 件	7 2 件	4 3 9 件
眼科			1 4 5 件	1 4 5 件

【スタッフ】

看護師長：矢野 悦子（認定看護管理ファーストレベル）

副看護師長：2名（内1名ががん化学療法看護認定看護師）

看護師：22名 准看護師：4名 ケアワーカー：6名

【病棟目標】

I、看護の質の向上を図り、患者様に安心・安全な看護が提供できる

- 1、臨床現場に対応できる知識・技術の向上
 - ① 看護研究に取り組み看護ケアに活かす
 - ② 人材育成（新人・2年目看護師教育指導）
- 2、看護の見える化（看護過程・看護記録の充実）
 - ① 看護ケアと記録内容の充実
- 3、PNS 導入に向けた活動

- ①プロジェクトチームと共に、導入に向けた取り組み

II、医療チームの一員として他部門と協力・強調し、経営効果を考慮した看護が提供できる

- 1、看護業務の改善と質の標準化
 - ① マニュアルを整備し、統一した看護ができる
- 2、入院前から効果的な退院支援を行い継続看護の充実を図る
 - ① 効果的な退院支援（在宅復帰支援）
- 3、チーム医療の充実と発展

【今後の課題・展望】

- 1、カンファレンス及び記録の充実を図り、効果的な退院支援ができる
- 2、在宅へ向けた退院調整を行い、効果的なベッドコントロールを図る

5 階 病 棟

【病棟の概要】

病床数： 38 床 （地域包括ケア病棟）

診療科：産婦人科、整形外科、泌尿器科、外科、内科の混合病棟

【平成 28 年度総括】

地域包括ケア病棟の運用が開始され 2 年が経過しました。急性期治療を経過し病状が安定した患者様に対して、自宅や介護施設への復帰に向け支援を行っています。退院先の住宅環境を把握し、患者様に合った指導や支援・調整を看護師・リハビリ技師・SMW によって協力して実施しています。住み慣れた地域でその人らしい暮らしを続けられるように、担当者が自宅訪問して住宅環境の確認をしたり、退院後に利用されるサービス担当者との共有と調整を行い、患者家族の満足を得られるように努力しております。

また助産師の活動として、周辺の学校へ性教育の講師派遣を行いました。平成 28 年度は 1 高校、5 中学校、1 小学校に命の教育に赴きました。又、山鹿市学校保健会・養護教諭合同研修会において命・性の教育に関わる立場として講話の機会をいただきました。山鹿市の子育て支援プレパママ教室にも協力しております。院内に限らず在宅支援・母児支援等、地域に貢献できるようにスタッフ一同活動しております。

延べ入院患者数	新入院患者数	退院患者数	平均在院日数	病床利用率
8876 人	125 人	461 人	日	64.0%

分娩数

分娩数	経膣分娩	帝王切開
54 例	39 例	15 例

【スタッフ】

看護師長： 原田靖代（認定看護管理セカンドレベル）

副看護師長：杉本登美代（助産師）、福山留美

助産師：5 名 看護師：12 名 ケアワーカー：3 名（非常勤）

【病棟目標】

1. 学習会を活用し、混合病棟における対応能力を向上させる
2. 退院支援の実際と患者反応、患者・家族への関わりの記録が出来る
3. 業務委員を中心にマニュアルとおりに実行できるよう調査と周知の関わりを行う
4. 患者家族と共に効果的な退院支援を行い、退院後に継続すべきサマリーを伝達できる
5. チーム医療関係者として意識した活動とチームの発展に貢献する

【今後の課題と展望】

1. 院内外その他職種協力支援をはかり、地域包括ケア病棟の運用を活性する
2. 混合病棟として様々な診療科の疾患に対応できる知識・ケアの向上

緩和ケア病棟

【病棟の概要】

病床数：13床（全室個室）

診療科：緩和ケア科・呼吸器科・一般内科・消化器科・外科・泌尿器科

【H28年度総括】

「一人ひとりの『ありのまま』を大切にします」という病棟理念のもと、病棟開設から5年目を迎えました。今年度は緩和ケアに関する専門的知識・技術の中でも難しく感じていたスピリチュアルケアについて勉強会を行い、患者様・ご家族が自分の思いや感情を表出でき、安心してその人らしく過ごしていただけるよう日々の看護に活かしていきました。以前と比べてスタッフのコミュニケーションスキルは向上していると感じています。また、機能評価に向けマニュアルの作成や見直しや、緩和ケアの正しい知識を広めたいとの思いで啓蒙活動にも取り組み始めました。

そして、今年度は11月より「緩和ケア病棟における質向上の取り組みに関する認証制度」が始まり、3つの取り組み（施設概要・利用状況調査、自施設評価共有プログラム、遺族調査）を実施・申請し認証を受けることが出来ました。

【入院状況等】

延入院患者数	新入院患者数	退院患者数	平均在院日数	病床利用率
3,182人	63人+転入44人	105名	30日	67.1%

【スタッフ】 計18名

看護師長：堤 里美（認定看護管理セカンドレベル）

副看護師長：木村 まり（がん化学療法看護 認定看護師）

看護師：14名、ケアワーカー：2名

【病棟目標】

- 勉強会の充実
（スタッフのスピリチュアルケアに対する不安の軽減を図る）
- マニュアルの作成と見直し
- 緩和ケアの啓蒙活動

【今後の課題・展望】

- 緩和ケア外来・緩和ケア病棟・訪問看護室・がん相談支援センターとの連携による切れ目のない緩和ケアの提供
- 緩和ケア病棟としてより一層の専門的知識・ケアの向上
- 緩和ケアの啓蒙活動により緩和ケアに対する正しい知識を広める

手術室・中央材料室

【平成 28 年度総括】

手術を受ける患者様は、高齢化が進み、麻酔や手術に対するリスクが高くなっています。手術は、最新の機材を使用し、高度な手術が行われるようになりました。そんな中、患者に安心して安全な手術室看護が提供出来るようにスタッフ全員で努力をしています。今年度は、病院機能評価に合わせて、多数あるマニュアルの見直しや、術前術後訪問の充実に向けた取り組みを行いました。

【手術件数】

※硬膜下麻酔・全身麻酔・脊椎麻酔併用

	外科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	眼科	合計
全身麻酔	209	351	47	48	0	655
硬膜下麻酔	72	31	36	0	0	139
脊椎麻酔	7	16	2	40	0	65
局所麻酔	27	72	0	0	289	388
合計	243	439	49	88	289	1108

【スタッフ】

看護師長 : 宮園清子
 副看護師長 : 堤 麻希 徳永綾香
 看護師 : 5名 准看護師 : 2名
 ケアワーカー : 1名 (第2種滅菌技師)

【手術室・中央材料室目標】

- 1 臨床現場に対応出来る知識・技術の向上
 - ・看護研究に取り組む
- 2 看護業務の改善と質の標準化
 - ・業務マニュアルの見直し・改訂を行う

【今後の課題・展望】

- 1, 整形外科 麻酔症例 367 例のうち牽引ベッド使用 130 例 使用率 35.42%
 今年度牽引ベッド購入予定である。この手術は、医師が一人でされる手術であるため、ベッドが 2 台ある事で、手術のスムーズな運営が期待出来る。
- 2, 外科 麻酔症例 216 例のうち腹腔鏡下手術 86 例 39.81% (途中で開腹は含まない)
 腹腔鏡の需要が増える傾向にある

緩和ケアチーム

【診療内容と現状】

平成 16 年 4 月に緩和ケアチームを発足し、がん患者様に対する身体的・精神的苦痛の緩和を行うことを目的に、症状コントロールが困難な症例（主治医、担当看護師から依頼された症例）に対し、組織横断的に活動しております。

平成 24 年 4 月に緩和ケア病棟が新設されたため、緩和ケア病棟に入院されている患者様のカンファレンスと回診も同時に行っております。

【スタッフ】

医師：2 名

緩和ケア認定看護師：1 名 リンクナース：11 名（各病棟及び外来）

がん薬物療法認定薬剤師：1 名 管理栄養士：1 名 社会福祉士：1 名

理学療法士：1 名 作業療法士：2 名 今年度は以上の 20 名で活動しました。

【臨床業務内訳】

1. 毎週水曜日 13:00～のカンファレンス・回診・コンサルテーション活動を実施

対象患者報告数：延べ 1,119 人 回診者数：延べ 456 人

2. 鹿本地域緩和ケア研究会の開催（年 2 回実施）

5 月 24 日：緩和ケア研究会総会

特別講演 「あなたらしさを活かしたスピリチュアルケアの在り方について」

講師 EQ College 代表 山本 美由紀 先生

*参加人数 57 名

11 月 24 日：症例発表会（4 題）

ケアプランジュン：今泉淳子 氏 「住み慣れた我が家で最期まで暮らせる為に」

山鹿市民医療センター：宮崎睦美 氏 「グリーフケアが患者・家族・医療者に

及ぼす影響」

宮坂歯科医院：宮坂圭太 先生 「がん医療連携 ～重度障害者の在宅医療から緩和ケアへ～」

中川医院：中川隆一 先生 「緩和ケア・私の経験と今後に思うこと」

*参加人数 56 名

3. 第 20 回日本緩和医療学会学術大会への参加

*医師：1 名・薬剤師 1 名・看護師 1 名

【今後の課題・展望】

1. 院内および地域における緩和医療のさらなる普及
2. 一般病棟の患者様への回診の充実
3. 緩和ケアチームのスタッフ育成

褥瘡対策チーム

【H28 年度総括】

チーム活動として、褥瘡保有者及び褥瘡因子の高い患者に関し適切な評価と、定期的を選任医師と褥瘡経験看護師による回診を行ない、適切な治療の提供と予防介入に努めている。また院内褥瘡発生を軽減させるためチーム委員及びスタッフの知識・技術の向上のため回診参加や研修を通しアセスメント能力を習得できるよう支援してきた。H28 年 12 月に機能評価受審があり、日頃、褥瘡予防対策を行っている事柄が確実にカルテに記録として残せていることが必須であり、リンクナースとともにチェックやできていないときは指導をスタッフへ行い、更に評価の視点に対する要素に関する資料作成や見直し、またはシステムの変更などを行った。提出する患者カルテの選定もでき準備もでき計画通りに進行することができた。今後も、委員個々の知識や技術の向上に努め、病棟スタッフへの指導ができ褥瘡予防対策が適切に行えるよう支援していくことに努力していきたい。

【スタッフ】

専任医師 工藤智志
 専任看護師 上村洋美
 病棟リンクナース 宮川里美 酒井しのぶ 古家紀代美 古閑丸由希
 園田玲子 野口律子 大坪美香 福山留美
 栄養士 永田美華
 地域連携室 松本千奈美
 薬剤師 1名

【本年度の活動】

- ・毎月第 1 木曜日委員会開催にて、各病棟より褥瘡保有患者(持ち込み・院内発生)褥瘡診療計画書作成患者数報告と症例検討
- ・毎第2・4木曜日 15時から褥瘡回診
- ・研修開催:4月 新人研修「入院フローチャートと予防介入」

	褥瘡診療計画書 作成数	褥瘡保有患者数 (持ち込み)	褥瘡保有患者数 (院内発生)	褥瘡回診患者数
2階病棟	154 名	12 名	5 名	19 名
HCU	3 名	0 名	0 名	0 名
3階病棟	288 名	33 名	14 名	80 名
緩和ケア病棟	64 名	7 名	0 名	3 名
4階病棟	195 名	11 名	5 名	専任医師対応
5階病棟	109 名	名	0 名	8 名
合計	813 名	53 名	24 名	110 名

糖尿病対策委員会

【概要】

平成28年度は児島医師をはじめメンバーの大きな変更後2年目を迎え、チーム活動を行ってきました。本年度より熊本糖尿病療養指導士（L-CDE）が立ち上げられ、約10時間の研修を受講後2月の資格試験で約39名（山鹿地区）のL-CDE合格されました。当院でも3名の看護師が合格し主に教育入院の場でかかっています。平成29年度は理学療法士が受験する予定です。

また、今年度は糖尿病教育入院のさらなる充実のため入院前から情報を共有するためのシートの作成や入院マニュアル、患者用ファイルの見直しを行いました。

糖尿病は生涯治療を続けなければなりません。糖尿病患者様が健康人と変わらない日常生活を送られることを目標に私たち委員も日々研鑽し、患者様に寄り添った指導を行えるよう努力していきたいと考えています。

【成果】

*血糖値改善セミナー

第16回血糖値改善セミナー H28年7月 糖尿病と腎臓
その他腎臓合併症について 参加人数 10名

第17回血糖値改善セミナー H29年1月 運動して暖まろう
その他肥満と糖尿病について 参加人数 5名

*糖尿病週間行事（世界糖尿病デーが11月14日のためその日を含む1週間のこと）

H28年11月に予定していた健康祭りが機能評前に重なり通年健康祭りと同時開催していた糖尿病週間行事は開催できませんでした。

*出前講座

H28年10月 松坂町サロン 糖尿病療養指導士 1名

*フットケア外来 毎週木曜日 糖尿病療養指導士の看護師がフットケアを行っています。

*病棟カンファレンス 毎週木曜日 15:30～ → 1月より毎週火曜日 15:30～に変更

*現在当院には計6名（薬剤師1名・看護師4名・検査技師1名）の糖尿病療養指導士と熊本糖尿病療養指導士2名が糖尿病対策チーム員として活動しています。

【課題】

昨年度は地域への啓蒙活動が十分に行えていなかったため地域への活動を重点に活動していきたいと考えています。